

国内産米穀のカドミウム含有状況の調査結果 農水省



The Knights

農林水産省では、「食品の安全性に関する有害化学物質のサーベイランス・モニタリング中期計画」（平成 18 年 4 月 20 日公表）に基づき、米穀のカドミウムに係るリスク管理を産地段階において的確に推進することを目的として、国内産米穀を対象にカドミウム含有状況の調査を実施しています。この度、平成 18 年産米穀の調査結果が取りまとめられ、公表されました。

本年度の調査では 1190 点の分析が行なわれましたが、食品衛生法の基準である 1.0ppm 以上のカドミウムを含む米穀はありませんでした。また、0.4ppm 以上 1.0ppm 未満のカドミウムを含むことが判明した米穀は 3 点ありましたが、これらは食品衛生法上違反とはならないものの、米穀出荷業者等により他の米穀と混ざらないよう保管され、工業用のりなどの非食用として適切に処理されるため、市場に流通することはありません。

18 年産米穀の一般調査で 0.4ppm 以上のカドミウムが検出された地域においては、来年度、重点調査の対象として引き続き調査を実施するとともに、県、関係団体等が、現地説明会やきめ細かな巡回指導により、畦塗りによる水田の漏水防止対策や出穂期前後の水管理対策の一層の徹底を図っていくこととし、19 年度以降も引き続き本調査の実施により、産地段階における吸収抑制対策の効果等を把握し、それを踏まえて産地におけるリスク管理対策の一層の推進に努めるとしています。

カドミウムは、鉱物中や土壌中などの天然に存在する重金属で、銀・銅・亜鉛などの金属とともに存在することから、日本においては 1 千年以上前から鉱山開発などにより、環境中へ排出されるなど、様々な原因により水田などの土壌に蓄積してきました。食品を摂取した場合に、食品中のカドミウムの一部が体内に吸収・蓄積されることから、カドミウム濃度の高い食品の長年の摂取によっては、腎機能障害を引き起こす可能性があります。FAO/WHO 食品添加物専門家会議(JECFA)では、カドミウムは腎臓に蓄積し、また、体内での半減期が長いことから、腎皮質のカドミウムが定常濃度になるのに 40 年以上かかるとされています。また、中高年以上の女性についてリスクが高いとされています。

当社ではカドミウムに限らず、食品中の様々な有害金属の含有量分析に実績があります。ぜひ一度ご相談下さい。

資料 2006 年 12 月 15 日付 農林水産省報道発表資料

機器分析箇所 有賀久枝